

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

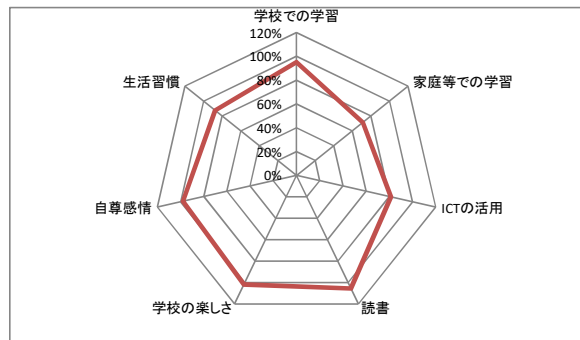
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	- 国語科平均正答率は、全国平均正答率に近づき改善している。 「知識・技能」は全国比に近づき、「思考・判断・表現」についてはやや課題がある。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	知識・技能については、「我が国の言語文化に関する事項」が、思考・判断・表現については、「人物像や物語の全体像を具体的に想像して記述する問題」の正答率が、全国に比べて高い。	下回っている
	努力が必要な問題	「思考・判断・表現」の観点に関わる内容で、「互いの立場や意図を明確にしなが計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」等の「△話すこと・聞くこと」領域については、課題があり指導が必要である。	
算数	全体的な傾向や特徴など	- 算数科平均正答率は、全国平均正答率に近づき改善している。 「知識・技能」は昨年度と同程度であり、「思考・判断・表現」については、全国平均正答率に近づき改善している。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	思考・判断・表現については、「目的に合った数の処理の仕方を考察する問題」の平均正答率が、きわめて高い。	下回っている
	努力が必要な問題	思考・判断・表現の観点に関わる内容で、「正三角形の意味や性質を基に、回転角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方を考察し記述する問題」については、課題があり指導が必要である。	
理科	全体的な傾向や特徴など	- 理科平均正答率の全国に比べてやや課題があり、標準偏差が大きく個々の資質能力の差に課題がみられる。 「知識・技能」の平均正答率は全国より高く、「思考・判断・表現」に課題がみられる。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	「知識・技能」については、「光の直進性を問う問題」の平均正答率が全国と比べて高い。	下回っている
	努力が必要な問題	「思考・判断・表現」については、「観察結果を分析し解釈する」、「情報を他者の視点から分析・解釈する」といった自分の考えをもつ問題については、課題があり指導が必要である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
- 読書週間の取組や学校図書館の積極的な運営等により、児童の読書時間が全国平均を上回り、特に2時間以上読書する児童が増加している。 - 対人スキル等の取組により「人が困っているときは、進んで助ける」等の規範意識や「自分には、よいところがあると思う」等の自己有用感が向上している。 - 学校の授業時間以外の普段の勉強時間が昨年度よりやや減少し全国平均より少なくなっている。より一層の意図的・計画的な家庭学習への取組の継続が必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

昨年度までの主題研究等の取組や日々の授業に加え、学校生活での指導、生徒指導等の成果が出てきている。国語科や理科をはじめとする授業では、分かる、できる授業を実現し成就感・達成感を感じることが出来る授業に向けた取組をより一層進めるようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

より一層の意図的・計画的な家庭学習への取組を継続し、称賛や励まし等による評価を通して適切な学習習慣が定着するようにする。※ご家庭においても、お子様の家庭学習の時間の取り方、取り組み方等の学習状況の確認や励ましにより、家庭学習習慣の定着のご協力をお願いいたします。